

# 忘れられた小児甲状腺がん患者たち

## 声を上げられない当事者にどう寄り添い、可視化するのか

コロナ禍により、日本社会に潜在化していた課題がむき出しになっています。確実な一次情報が速やかに公開されず、市民が政策を判断するための客観的データが乏しい中で、疑心暗鬼が蔓延し、被害者にバッシングが向かう——。被害者が声をあげられなくなり、偏見や差別が増大して悪循環が生じる——。

しかし、こうした日本社会における構造は、今に始まったことではありません。東京電力福島原発事故後、小児甲状腺がんをめぐっても、同じことが起きてきました。福島県で見つかった小児甲状腺がん患者は現在、疑い例も含めると、公式に発表されたデータだけでも 240 人。100 万人に 1 人と言われた病気が、1 万人に 1 人の割合で見つかることになりましたが、検査のしすぎによるものとされ、国や県は甲状腺検査の縮小や打ち切りを模索しています。復興キャンペーンが繰り返される中、患者の存在はタブー視され、人数も病状も、被害の全容が封印されたまま 10 年が過ぎようとしています。

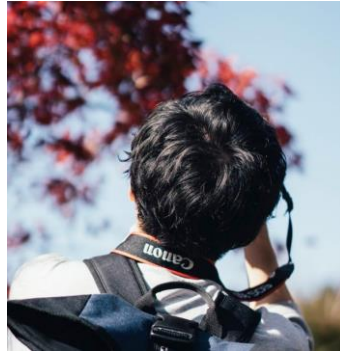
声を封印され、忘れ去られている若い患者たちは今、何を感じているのでしょうか。ゲストに、甲状腺がん手術を受けた 20 代の患者と支援者らを招き、甲状腺がん患者の可視化と救済に向けて私たち社会は何ができるか一緒に考えていきます。

### ■ゲスト：千葉親子さん



「甲状腺がん支援グループ・あじさいの会」を 2016 年に設立、事務局長。東京電力福島第一原発の 110 キロに位置する福島県会津坂下町に居住。1998 年から「精神福祉ボランティアピアの会」で精神障害者の家族会、当事者支援など福祉活動を続け、2000 年から会津坂下町の町議会議員を 4 期務める。14 年「チェルノブイリ救援中部」のウクライナ訪問団委員としてチェルノブイリを訪問。

### ■太陽さん



福島県会津若松市出身。20 代半ば、会社員。高校時代の超音波検査にて甲状腺がんの一種、乳頭がんが発覚。大学時代に左半分の切除を決意。大学卒業後は東京で SE として就職。趣味は、カメラ、ゲーム、映画ドラマ鑑賞、バンド（ドラム）。

### ■白石草さん



放送局勤務等をへて、2001 年に非営利の独立メディア「OurPlanet-TV」を設立、代表を務める。テレビなどで扱にくいテーマを中心に番組を配信する傍ら、映像ワークショップを展開。3.11 以降は福島原発事故に関する取材に取り組み、放送ウーマン賞、科学ジャーナリスト大賞、JCJ 日本ジャーナリスト大賞、東京弁護士会の「人権賞」などを受賞。著者に「ルポ チェルノブイリ 28 年目の子どもたち」(岩波書店)。

■日時：2020 年 10 月 3 日(土) 13:30~16:00 ※受付時間 13:00~13:25

■会場：オンライン開催

※オンライン会議システム・Zoom を使用。スマホや PC 等の端末から参加いただけます。参加方法の詳細は、お申込みくださった方に 10 月 1 日までにメールいたします。グループ対話セッションや、ゲストとの対話も行う予定です。聞くだけの参加も可能ですが、この対話の場を一緒につくれるよう、お声を出していただけたら幸いです。参加者さまのお顔は写らないよう初めはこちらで設定しますが、グループ対話中は、自主的にお顔を写していただけます。

■参加費：無料 ※先着 50 名様。申込締め切り：20 年 9 月 30 日または定員に達した時点の早い方。

■主催：認定 NPO 法人まちぽっと ソーシャル・ジャスティス基金(SJF) <http://socialjustice.jp/> メール [info@socialjustice.jp](mailto:info@socialjustice.jp)

■お申込みページ：<https://socialjustice.jp/20201003.html> ※完全事前登録制。当ページからのみ受付